

失敗しない矯正医選びのために

矯正医の選び方

矯正治療を始める前に知っておきたい矯正治療の現実

こんにちは！矯正治療専門医の三橋展明です。

矯正医として 20 年、患者様との対話を大切にし、真摯に対応することをモットーにしています。

他医院にて行った矯正治療に疑問を感じ、セカンドオピニオンや再矯正される患者様が多く来院されることから、失敗しない矯正治療についてまとめさせて頂きました。ご参考にして頂けましたら幸いです。

私自身、矯正治療をする前のあだ名はビーバーでした。自分が経験しているだけに患者様のお気持ちが分かるつもりです！



三橋矯正デンタルオフィス

中央区八重洲 2-5-6 KBY ビル 2F

03-5200-7117

<http://www.mihashi-kyousei.net/>

三橋 展明

矯正医選びは非常に大事…噛み合わせを治せないドクターがいる現実

矯正治療における成功と失敗

そもそも矯正治療に成功・失敗があるのでしょうか？

過去に矯正治療をしたと言われる患者様を拝見することがあります。

それらの患者様は確かに矯正治療をした甲斐もあり、一見したところ並びは綺麗です。

しかし、噛み合わせは？となると、お世辞にもきちんとした位置で咬合・噛み合わせが出来ているとは言えない方がいるのも事実です。

見た目と噛み合わせのどちらも大切

せっかく矯正治療を行って歯を動かすのですから、噛み合わせもしっかりと治ってこそ、治療を行った意義があるのではないのでしょうか。

矯正治療とは本来「審美」（美）と「機能」（咬合）の確立が目的です。

確かに主訴が「見た目を綺麗にしたい」ということにより矯正治療をする方も多いので、歯が揃うと、患者様も満足しているし「はい、綺麗になりましたね」で終わらせてしまうドクターもいるということなのかもしれません。

このように、元から噛み合わせは治す気がないのか、治すつもりでも技術がないのか、矯正治療は、一本のワイヤーで14本の歯を3次元的にコントロールしなくてはならないので、かなりのテクニックを要します。

そこには、知識や経験だけでなく、天性の資質やセンスも求められるのかもしれません。

噛み合わせが悪いと歯を失うことも・・・

矯正治療を審美・咬合の両面において成功させるためには、患者様としても、本来の正しい噛み合わせを知っておくことが必要になります。

噛み合わせが改善されない状況で矯正治療が終了していても、それが直ちにお口の中のトラブルとして現れないこともありますが、長期的な歯の健康を考慮した際には、噛み合わせの問題は歯の健康を害し、最悪歯牙を失うことにも繋がります。



咬み合わせの悪さが虫歯の原因…マイクロクラックを御存じですか？

しっかり歯磨きをしていても虫歯になる人がいる

例えば、虫歯や歯槽膿漏の原因のその多くが

実は咬み合わせが悪いことにより起こっているとご存じでしょうか？



普段テレビでは、「虫歯・歯槽膿漏は細菌が原因です。」という歯磨き粉のCMが流れているので、口腔内の病気の原因は細菌によるものと言うことは誰しもご存知かと思いますが。しかしそれはあくまで「歯磨き粉」のCMだからです。

もちろん歯磨きをしないと、虫歯になるし歯槽膿漏にもなります。

一方「私、歯磨きをきちんとしているのに虫歯になりやすいんです。」と言う人もいます。

これは何故でしょうか？

歯の表層のエナメル質は非常に硬く、強化ガラスに近い硬度を持っているため、強い衝撃にも耐えられます。逆に、弱い力であっても何百回、何千回も繰り返して叩き続けると砕けてしまいます。

日常的な歯ぎしり・食いしばりなど、過度の力が加わり続けると、硬い歯のエナメル質にもマイクロクラックと言われる細かなヒビが入ります。

そのクラックに虫歯菌が侵入してしまうと、どんなに歯磨きを頑張っても中の菌を落とすことはできません。これが、咬合由来の虫歯となります。

11人対1人で戦うサッカーの試合と同じ！？

このように虫歯の直接の原因は細菌ですが、根本的な原因は咬み合わせが原因な場合も多いのです。

バランスのよい歯並びでは、過度の咬合力がかかっても多くの歯でその力を分散できます。

しかし、咬み合わせの悪い状況では、1本～2本の歯が先に当たり、咬合の負担をその歯だけが担うことになります。

スポーツで言えば、11対11で戦うはずのサッカーを11人対1人か2人で戦っているのと同じです。

これでは負担のある歯だけすぐに疲弊してしまいます。



歯槽膿漏も噛み合わせの悪さが関係している！？

歯の土台が破壊される恐怖

歯だけでなく、歯をしっかりと支えている歯周組織（歯肉や歯槽骨）が病気に侵されると、一般的に言うところの歯槽膿漏になりますが、直接的に細菌の関与と、咬合の過度な負荷が歯槽骨の破壊へつながるものがあります。

体は新陳代謝により、日々新しい細胞に置き換わり、ある程度の咬合負荷も耐えられますが、

40代以降になると骨密度は下がるうえ、この状態で

歯並びが悪く部分的に過度な咬合力が働くと歯槽骨が破壊されてしまいます。



普段から自分の歯は丈夫だと思われている人でも、あるとき突然歯が痛みだす、歯肉が腫れるなどで、歯医者に行くと歯槽膿漏で歯を支えることが出来ないとわれ抜歯になってしまうことがあります。

ドミノ倒しのように歯を失う可能性も

上記の例のように、一番咬合負荷を担っていた歯がなくなると、次に強く当たる歯牙にその負担がかかってくるので、しばらくするとその歯が同じ症状により抜歯に至るところになります。

そうやって、次々と連鎖的に歯牙を失ってってしまうのも咬み合わせの問題から起こる歯槽膿漏の怖い所です。

このように、咬み合わせが悪い状態を放置して置くと、歯・お口の健康にとっては多々問題を引き起こすこととなります。



まだしっかり噛めている気がしない・・・

前から見ると綺麗でも・・・

「噛み合わせが悪い」というのはどのような状態でしょう？

例えば右の方は、他院にて2年程矯正治療を行っていたそうです。

その甲斐あって、一見綺麗な歯並びに見えます。

この方の噛み合わせを他の方向から見てみましょう。



上下前歯には当りがなく隙間が開いています。(右写真)

前歯が咬めていないということは、

奥歯にもズレがみられる可能性があります。

現実に患者さん自身も噛み難い感じが残っていたので、担当の医師に伝えていたのですが、「あなたはもう治っているから治療は終わりだよ。」と理解してもらえなかったそうです。

そしてセカンドオピニオンを求めて当院に来られました。

その後の治療をこちらで行い、良好な結果を得られました。



患者さんもしっかりと噛めるようになり、見た目もより綺麗になったと喜んで頂けました。

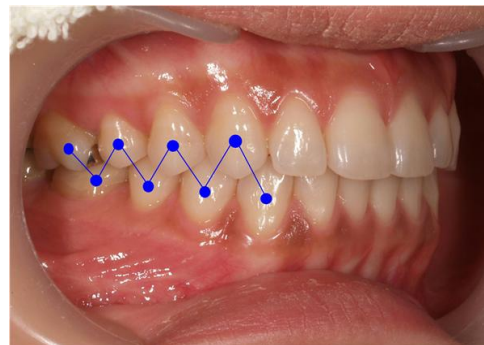
正しい噛み合わせとは…

歯並びが見た目的に問題なく見えても、噛み合わせの良し悪しは見ためだけでは判断できないこともあります。

このように、見た目が美しく綺麗に並んでいる歯並び=噛み合わせの良い歯並びではないこととなります。

自分の咬みあわせの状態をチェックしてみよう！

では、ここで正しい咬み合わせを見てみましょう。



歯牙を咬みあわせた状態で、上下前歯は隙間なく咬み込みます。また、奥歯では上と下の歯牙はそれぞれ互い違いに1歯対2歯のポジションをとり、この位置が上下歯牙の凸凹が無駄なく嵌合するポジションになります。

前ページの症例は上の歯列が全体的に前にあるか、下が奥にあることとなります。

写真のように前歯をやや下から見て咬み合わせの状態を見ると、奥歯の咬み合わせも大まか予想ができます。

ご自身の咬み合わせをチェックする際には以下の手順になります。

まず、手鏡を用意して下さい。



- ① 姿勢よく座るか、立つかして顔は正面を向きます
- ② 軽くお口を開いた状態(上下の歯が当たらない)で下アゴの力を抜いて
- ③ 意識的に下あごを軽く後ろに引きながら咬んできます
- ④ どこかで始めに歯が当たったらアゴを止めます
- ⑤ 歯は一部なり当たっている状態ですが、唇は軽く開いた状態で、手鏡をアゴの下辺りに持っていき、視線を下げ鏡をのぞき込みましょう

この際、上下前歯が隙間なく咬めていれば、咬みあわせの問題はほぼないと言っていいでしょう。逆に、咬んできた際に一部の歯しか当たってこない、もしくは上下前歯に隙間があるようであれば、咬み合わせの問題があることとなります。

前歯、奥歯が上記写真のように咬めていれば、問題はありません。

装置料＝矯正医の技術料金

矯正の料金は通常「装置料」と「処置料」とに分けて設定されていることが多いと思います。そして「装置料」が矯正の金額の中の多くを占めることになります。

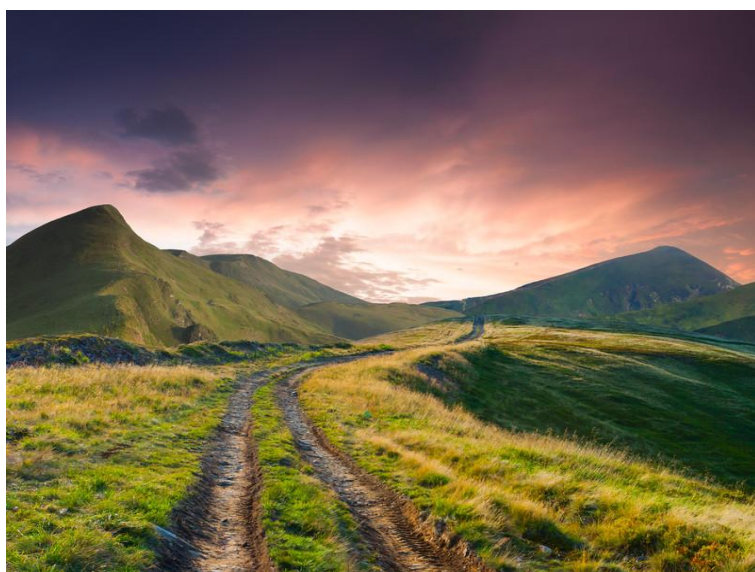
病院サイドが「装置料」と表示しているから分かり難いのですが、「装置料」は本来ドクターの「技術料」であると言えます。

矯正治療を行う上での、そこに必要な知識や技術に対する料金とさせて頂けると本来のあり方に近いと思います。



転院で治療を行う際、すでに装着されている装置を使用するにしても、治療を行う上での「技術料」に相当する部分の料金が必要になります。

そこで、発生する料金と治療に必要な時間は、もちろん患者様の負担になってしまいます。



正しい歯並びを得るまでには、長い年月がかかります。矯正治療は山登りと似ていて、どの山に登るかで、そこへ至る道が異なります。

ドクターはシェルパとなり患者様を導かなくてはなりません。高い山を目指すのであればそれなりの装備や知識が必要です。ドクターがど

の頂きを目指しているかで、登れる山には限界がでます。

矯正治療の結果はドクター次第です。

矯正歯科を選ぶ理由は多々あると思いますが、ぜひ正しい知識をもって担当医選びをおこなって頂き、矯正治療を通してより健康に、より美しくなって頂けたら嬉しく思います。

